



浜浦だより

— 第 629 号 —
 新潟市中央区浜浦町1の1
 浜浦小学校
 電話 (025) 266-3181
<http://www.hamaura-city-niigata.ed.jp/>

玄関の光景

校長 小林 圭 一

その子は、じっと見上げている。見上げたまま動かない。微動だにせず、とはこのことだ。何事かと声をかける子もいるのだけれど、その声は耳に届いていないようだ。

返事をもらえない子は、仕方なく自分の目で確かめようと、同じ方向に目をやる。そして、「あつ」と声を上げ、その子もまた動かなくなる。こうして、見上げる子が増えていく。

そのうち、一人の子が口を動かし始める。まるでパン食い競争でもしているように、あんぐり開けた口を開け閉じしながら、パクパクと動かしている。いつのまにか見上げていた子どもたちは皆、口をパクパクさせている。

私も返事をもらえなかった一人なのだけれど、決して悪い気分ではない。むしろ、うれしくて、うれしくてたまらない。

◆ 六月の晴れた日の朝、浜浦小の玄関での光景である。

彼らの目に映っているのは、「ツバメの巣」だ。玄関をくぐろうとする子ども達の頭上をスイーッと飛んでいくツバメは浜浦小の風物なのだと思っていた。春先から多くの子がツバメの様子を気にかけていたし、特に、初めて遭遇する一年生は興味津々だった。

聴衆がぐっと増えたのは、ヒナがかえってからだ。幾重に重なる鳴き声に多くの子が足を止め、巣を見上げた。先の光景は、その頃、目にしたものだ。

無心で見入っているうちに、いつの間にかヒナに同化してしまふ一年生が現れる。ヒナと一緒に口をパクパクさせ始める。そして、同化する子は、二人三人と増えていく。何とも愛おしい光景なのだが、本人たちに自覚は無いようで、見上げたまま、ただただ口を動かしている。

◆ ツバメに素直に心奪われ、没頭できる子どもたちは、なんとも豊かに育っているなあと実感する。そして、ツバメがすぐそこに、当たり前前に居る浜浦の地もまた、豊かな所なのだなあと実感する。私は朝からとてもいい気分だ。

◆ ところで、玄関の光景はこれに止まらない。「見上げる」ばかりではないのだ。口パクパクから半月ほど過ぎた日の朝のこと。私が目にしたのは、「下を向く」子どもたちだ。四つん這いになっている子たちもいる。

何だ、どうしたと尋ねると、「トンボ！」と返ってきた。どうやら玄関前の排水溝のヤゴが一斉にかえったらしい。たしかに、金網越しにたくさんさんのトンボが透けて見えている。

彼らは、金網の隙間に小さな手を何とかこじ入れて、トンボを捕ろうと悪戦苦闘している。金網を外してから捕まえようとは思いつかないようだ。朝から一心不乱、全力投球だ。

この光景もまた、とても良い。やっぱり私は、うれしくて、うれしくてたまらなくなる。